

## Ⅱ 扶養手当認定チェックリスト

続柄等	<input type="checkbox"/> 子、孫、弟妹の場合、満 22 歳に達する日以後の最初の 3 月 31 日を経過していないか ⇒ 要領 2 (2) (3) (6) <input type="checkbox"/> 父母、祖父母の場合、年齢が満 60 歳以上か ⇒ 要領 2 (4) (5) <input type="checkbox"/> 配偶者、重度心身障害者以外の場合、血族（法定血族を含む）であるか ⇒ 要領 2 (2) ～ (6)
所得等	<input type="checkbox"/> 他に生計のみちがなく主としてその職員の扶養を受けているか ⇒ 要領 2 <input type="checkbox"/> 職員の配偶者、兄弟姉妹等が受ける扶養手当又は民間事業所等のこれに相当する手当の支給の基礎となっていないか ⇒ 要領 3 (1) <input type="checkbox"/> 向こう 1 年間の恒常的な所得の見込みが 130 万円未満か ⇒ 要領 3 (2) <input type="checkbox"/> 所得の見込みについて、暦年、年度ではなく向こう 1 年間で見込んでいるか ⇒ 要領 3 (2) <input type="checkbox"/> 雇用保険受給者の場合、その月々に受ける額（日額× 365 日÷ 12）が 130 万円の 12 分の 1 以上となっていないか ⇒ 質疑 6 (1) <input type="checkbox"/> 事業所得がある者について収入を見込む際、直接経費以外のもの（減価償却費、租税公課費、損害保険料等）を控除していないか ⇒ 要領 3 (2)、質疑 6 (6) <input type="checkbox"/> 父又は母の場合、父母の収入の合計が 260 万円未満か ⇒ 質疑 3 (4) <input type="checkbox"/> 特定期間にある子の加算を行っているか ⇒ 要領 4 (2)、8 (3)
その他	<input type="checkbox"/> 事実の生じた日の確認は行ったか ⇒ 要領 8 (1) <input type="checkbox"/> 支給の始期について、届出が事実発生日から 15 日を経過した後になされた場合、届出を受理した日の属する月の翌月（その日が月の初日であるときは、その日の属する月）としているか ⇒ 要領 6 (1) <input type="checkbox"/> 認定に当たって必要な証明書類は添付されているか ⇒ 要領 5 (2) <input type="checkbox"/> 扶養手当認定簿への整理を行ったか <input type="checkbox"/> 支給額が誤っていないか（給与支給明細書との突合）
<p>認定後も次について注意すること。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>■ 所得の状況を随時確認すること。（年金改定、雇用条件変更、事業規模変更、就職等）</li> <li>■ 年度が変わる際、特定期間となる子がいらないか確認すること。 ⇒ 要領 4 (2)、8 (3)</li> <li>■ 認定の取り消しを行う場合、届出日ではなく事実の生じた日に基づき終期を決定すること。 ⇒ 要領 6 (2)</li> </ul>	

注 1 本チェックリストは、認定等に当たって誤りが見受けられる箇所についてのチェックリストである。

2 上記のチェックは、扶養親族届に添付される証明書類等により行うこととし、扶養親族届の記載内容又は職員からの口頭説明のみにより行うものではない。

3 表中「要領」とは扶養手当認定要領のことを、「質疑」とは扶養手当に関する質疑応答集のことをいう。